

「生涯研修を学ぶ意義を振り返る」

当協会ではこの 6 年間、日本精神保健福祉士協会より業務委託を受け、生涯研修制度である基幹研修のレベル I を開催しています。

今年度も 2 月 11 日に大阪保健福祉専門学校を会場としてお借りして、研修を開催しました。

その際、許可なく（お借りしている会場であるため許可することはありません）携帯電話を充電している受講者がいました。アンケートに「注意を受けたこと」についての不満を述べる事実がありました。

また、講師の話が延長された際に、主催者にジェスチャーで不満を述べ、そのことが受け入れられなかったことを知るや机に突っ伏してしまうなどの行為がありました。

本研修につきましては、日本 PSW 協会の生涯研修に位置づけられ、修了証も発行されるため、15 分以上の遅刻は認められず、受講時間を満たさないときは研修を修了したと認定されません。主催者として生涯研修の規定については厳守しております。

なお、時には講義が白熱して若干時間が延長する事がありますが、そのような場合は可能な範囲で休憩時間を活用し調整を行っています。

今回、時間調整による休憩後の各講義について受講者 64 名中 8 名の遅刻が認められました。また講義中、明らかに 15 分以上突っ伏した状態で受講する姿も認められました。このような受講態度は、受講者の研修を受けることの意味について、PSW として自己研鑽への姿勢に真意を問わざるを得ません。

そして、何よりも多忙を厭わず生涯研修の講師を快諾いただいた講師に対する非礼であり、熱心に講義を聴講する出席者への妨げとなります。PSW は何よりも人心を大切にす

ことを誇りとします。講演の妨げとなる行為については、あえて社会人としての自覚を促すものです。今一度、会員の皆様と共に研修を受ける意義を考えたいと思います。

大阪府精神保健福祉士協会
会長 平則男